業科目名： 英語科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大和　洋子・森　直樹 担当形態：オムニバス

実務内容 （実務家教員の場合）	
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。

B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。

C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。

D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。

F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

・学校教育における英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解する。

・小・中・高等学校の連携の在り方について理解する（2020 年から新学習指導要領へ小学校から順次移行し、英語教育が大きく変わったため、特に自分の希望する校種の前の段階の指導要領・教科書についても理解が必要となったことに注意）。

・学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。

・中学校及び高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。

・学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。

・中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。

・言語能力の測定と評価の方法について理解する。特に、「話すこと［やり取り・発表］」及

び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について理解する。

授業の概要

学校教育における英語教育の在り方、中学校及び高等学校英語科の目標や内容、英語に関する各指導事項の内容と授業との関わり、英語科における学習評価について学ぶ。

授業計画

第１回：世界の中の英語
第２回：第二言語習得
第３回：外国語教授法
第４回：学習者
第５回：学習指導要領
第６回：言語要素の指導
第７回：4 技能の活動
第８回：授業展開
第９回：教材・教具
第１０回：テストと評価
第１１回：教員養成と教員研修
第１２回：小学校英語
第１３回：ICT と英語教育
第１４回：英語科の学習評価①（観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定、評定）
第１５回：英語科の学習評価②（言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む））
定期試験
※スクーリングではすべての内容を包括的に扱う。

教科書

岡秀夫編著（２０２０）『新・グローバル時代の英語教育―新学習指導要領に対応した英語科教育法―』成美堂

参考文献

（１）土屋澄男他（２０１９）『最新 英語科教育法入門』　　研究社
（２）文部科学省『中学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　外国語編』
（３）文部科学省『高等学校学習指導要領〈平成３０年告示〉解説　外国語編』

学生に対する評価

レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。